

	委員 1	委員 2	委員 3	運輸局
<p>美浜町地域公共交通会議</p>	<p>デマンドなのになぜ高校生の時間に合わないのか？ 予約がそもそもできないのか、予約しても取れないのか、といった原因を明らかにしないと利用してもらえない デマンドを観光客も使っているのは素晴らしいと思うが、どうやって利用しているのか？ 観光利用の量も捉え、もっと情報発信して欲しい。観光客に使ってもらうことで生活交通を支えることも必要。 →ホームページで知って予約して乗っている。インバウンドも年1000人のペースで増えているので、標準的バス情報フォーマットの整備によって情報発信をしていく予定である。</p>	<p>利用促進の取り組みのうち、無料乗車券について、どのくらい使われたかを分析することが重要。 →高校生は100人に対して50～60人、高齢者は、老人クラブで説明し500人に対して100人、地球温暖化などのイベント等で100名ほどの利用があった。</p>	<p>利用者数はH29をベースとした目標に対して大きく落ち込んでいるが、どういう落ち方か？ どういう人の利用が減っているかを把握することが大切 →過去5年間毎年1000人程度減り続けている 高校生については、沿線の高校生人数とそれに占める占有率を把握することが重要。占有率低下の理由は把握しているか →部活の時間に合わず家族の送迎が増えるということを知っている 部活に対応しないといつまでも増えない。理由がわかっているのであれば対応策を検討すべき。 朝は親に送ってもらえても、夜は親が仕事で対応できないことがある。高校生と話をしてどういう時間帯に便があると良いのかを考えて欲しい。 →今後見直しを検討する</p>	

中部運輸局第三者評価委員会 第1日目（福井）

	委員 1	委員 2	委員 3	運輸局
若狭町地域公共交通会議	<p>取組の成果を具体的に書いてもらおうと理解しやすいし、成果をしっかりと見せて欲しい。</p> <p>会議について、皆さんと一緒に守る姿勢をもってもらうために、もっと密にコミュニケーションを取ってもらいたい。法定の手続きだけではなく、参加者に意見交換をしてもらうことが公共交通会議の本質。</p> <p>文化施設の利用が少ないのが心配。目的地になっていないのではないか。ここが目的地になる取組が必要である。</p> <p>→利用者数だけでなく、中身を考えていきたい。</p>	<p>ソフト的施策については、やったことが利用者増に寄与しているかを分析することが必要。</p> <p>デマンドタクシーについても、商業施設や医療施設での利用者が多いのであれば、利用される施設での利用啓発も必要ではないか。</p> <p>→ふるさと納税の返礼品としての取組は対象者が少ないが、評判は良い。利用促進のPRは公共施設（診療所、文化施設）でも実施しているが、さらに広げたい。</p>	<p>自己評価を書面協議でやってしまっただけで良いのか？ 会議を補助申請と評価の時しかしていない。もっと意識を高めて欲しい</p> <p>→前年度に運賃改定のために会議が多かったために、今年度は少なかった。</p> <p>運賃改定後は利用者への打撃が大きいので、その程度を調べ、どうやって利用してもらうかを議論すべきであり、改訂前より会議が減るのは本末転倒。</p> <p>デマンドの乗合率を高めるのは難しいと思うが、具体的に何をしているか</p> <p>→乗り合うことで料金が据え置かれることをPRしていく。</p> <p>料金改定後、利用が75%まで落ち込んだが、ふるさと納税やPRなどの取組を行って、改定前95%まで戻ってきている。乗合での利用が定着してきているのと、登録者を増やす取組が効果が出てきている。今後も検証していきたい。</p>	

中部運輸局第三者評価委員会 第1日目（福井）

	委員 1	委員 2	委員 3	運輸局
<p>敦賀・小浜交通圏</p>	<p>この地域は観光客の利用も見込める。GTFS もそうだが、単独の町だけでは効果が限定的なので、広域対応できると良い。合わせて民間路線バスのデータ整備も進めて欲しい。</p> <p>→（県）GTFS 整備を市町にお願いしており、嶺南では敦賀市が独自に取り組んで経路検索に対応しているほか、美浜町、若狭町もオープンデータ化をしている。整備状況はまだ虫食い状態だが、早期に整備を進めたい。</p>	<p>他地域でどういう取り組みをしているかを広く知って、新しい取り組みをして改善を続けて欲しい。</p>	<p>地域間幹線への取り組みについては具体的になにをしているか。</p> <p>→（美浜町）敦賀市と協議をして改善を考えたい。また、事業者と協力しながら利用促進に取り組んでいきたい。</p> <p>（若狭町）若江線については、中学生の通学に利用されている。バス停の変更やバス停設備への補助を行っている。</p> <p>（県）嶺南地域で網形成計画を策定している。今後、網計画に基づいて取り組んでいこうと考えている。</p>	

	委員 1	委員 2	委員 3	運輸局
<p>坂井市地域公共交通活性化協議会</p>	<p>まちづくりとも連携しながら、交通弱者（お年寄りや子ども）だけでなく通勤・通学も含めて公共交通の利用増を目指すという、チャレンジングな目標を掲げていると感じた。</p> <p>一方で住民ニーズと運行サービスのギャップをどう埋めていくか。実現のためには投資も必要と思われ、ターゲットを絞るということも考えられるが、高い目標の実現に向けて、画餅に終わることなく取り組んでいただきたい。</p> <p>→免許返納制度も設けているが必ずしも便利でない所もあるほか、コミュニティバスは土日運行していないという課題もある。複数の交通手段を組み合わせながら、市内移動の充実を検討したい。</p> <p>計画の中では、クルマの抑制のための施策も是非盛り込んで欲しい。駅周辺でウォークアブルな空間作りも検討してほしい。</p>	<p>市民アンケートの世帯回収率の22.7%はかなり低いと思われるが、どのように評価しているか。</p> <p>→今回のアンケート他案件のアンケートよりも低い状況であるが、その理由を庁内で分析したところ、公共交通ユーザーがかなり少ない状況で、住民が自分に関係がないと思われた可能性がある。</p> <p>ただアンケートを実施して終わりではなく、住民との意見交換を実施するなど意識醸成を図ることが重要である。</p>	<p>公共交通の東西軸が弱いということだが、そもそも東西方向の需要自体が少ない可能性もあり、東西軸を設定することの必要性も検討すべき。</p> <p>各駅及び丸岡バスターミナルは、周辺に何も施設がない。拠点として適切なのかの検証が必要。</p> <p>旧4町単位で議論する機会を作ることが必要。関心も低いのにアンケートだけ実施していてもあまり意味がなく、もう少しで乗りそうだが乗っていない方などいない方にどうやってニーズを把握するのかを考えるべき。</p>	

	委員 1	委員 2	委員 3	運輸局
福井交通圏	<p>県として広域路線としてどの方向性で見い出すか、その姿勢が問われている。観光という良いコンテンツがあるが、広域で連携することは県しか出来ない。県が市町と一緒にやって育てていくという姿勢を見せて欲しい。</p> <p>芦原丸岡永平寺線は時間がかかるが、遅い路線が必ずしもダメということではないので、一日乗車券の発売なども含めて観光誘客による利用増進を検討して欲しい。</p>	<p>有名な観光地がある中で、観光も含めた利用促進戦略はどう取り組むか。</p> <p>→新幹線開業を機に、新幹線開業対策プランの策定や観光戦略の見直しを進める中で、観光部局とも一緒に検討することになる。ただ、観光路線となると、どうしても速達性重視となつて生活ニーズとは合わない部分もある。これから話をしていく形になるが、生活路線と観光路線の融合の可能性について検討していきたい。</p> <p>GTFS 化が進めば、検索画面に表示されて一般路線でも観光客が乗れるようになるので、観光と生活交通の相乗効果を狙って欲しい。</p>	<p>芦原丸岡永平寺線は、所要時間は長いものの、福井の観光名所を巡るゴールデンルートと言え、観光への活用が考えられるのではないか。越前海岸周辺の路線も同様である。県の主導で早期に実現して欲しい。</p> <p>一方で芦原丸岡永平寺線を、生活路線としてどのように維持をしていくのかの検証も必要。長大路線は運転士不足の中では真っ先に撤退される可能性もあり、自治体としてどう考えているか。</p> <p>→（坂井市）別立てで運行する観光シャトルバスと整合性の検討は重要。生活路線と観光で複数の交通手段をユーザーが選択できるような状況を作っていきたい。</p> <p>Wi-Fi と電源の確保と椅子を良くすること。良い車窓を案内することも出来るし、本数が多いので当路線で色々な展開が出来る。</p> <p>→（県）現行路線の観光利用の可能性を具体的に検討していきたい。</p>	

中部運輸局第三者評価委員会 第1日目（福井）

	委員1	委員2	委員3	運輸局
福井県生活バス路線確保対策協議会	<p>県への期待は大きい。観光部局との連携についてもイニシアティブをとって欲しい。</p>	<p>観光客は鉄道駅まで来られるが、その先をバスで行けるようにしていただきたい</p>	<p>福井鉄道エリアは池田線が補助から落ちてしまった。越前海岸方面は福井・鯖江・武生のいずれからもアクセスできるがそれがわからないなど、案内が不備。アピールしてほしい。</p> <p>京福バスエリアは、路線がまだ複雑で理解しづらい。拠点を活用し地域間幹線とコミバスの役割分担をすることで便数を増やすことができるかもしれないので、県はそこを意識して欲しい</p>	